

『サステナビリティ経営研究』表記ルール

2020年9月12日

日本経営倫理学会 編集委員会

「サステナビリティ経営研究」は、2020年6月20日開催の日本経営倫理学会理事会及び会員総会において承認された「日本経営倫理学会 新ジャーナル企画書」7(2)において「章や節などの表示、脚注内の表記、参考文献の表記などは、日本経営倫理学会誌の表記ルールに準拠する」こととなっています。

以下、日本経営倫理学会誌「論文原稿執筆要領(改定版 2020.6.29)」から表記ルールのみを抜粋しましたので、掲載審査等にご活用頂きますと幸いです。

1. 文字数・構成

(1) 字数

「論文」「事例研究・調査報告」ともに、和文 24000 字、欧文 10000word 以内とする。

(2) 構成

- ①論文の表紙の冒頭に、論文タイトルおよび執筆者の所属・肩書と氏名を、和文と英文の両方で記載する。副題をつける場合は、主題の下に和英両文で記載する。
- ②脚注は本文の最後にまとめ、1) 2) などと通し番号を付して、本文から参照する。

2. 文体、句読点、ピリオドについて

- (1) 邦語の文体は「である」体を用い、英数文字は基本的に半角で表記する。
- (2) 邦語・英語、本文・脚注ともに「、」「。」を使用する。

3. 図および表

- (1) 図および表はそれぞれ図 1、図 2 および、表 1、表 2 のように通し番号をつけ、その後に関題あるいは表題を記載する。
- (2) 図番、図題は図の上に、表番、表題は表の上に記載する。
- (3) 引用先がある図・表の場合は、図・表の下に「典拠資料名」を記載する。

4. 引用の表記方法と注の書き方

以下の例に基づいて①本文中と②文末脚注で引用先を明示する。本文で参照した書誌情報は注及び参考文献表に漏れなく全てを明記する。

- ①本文中で書籍・研究文献の文献表示を行う。なお、同一の著者がいる際は、判別しやすいように水谷(雅)などと書くことも可能。また同一年度に出版された文献を複数引用する場合には、「水谷(1993a)によれば」「水谷(1993b)によれば」などの書き方も可

能である。

例：著者名（発行年） もしくは （著者名：発行年， 頁数）

（例1） 水谷（1993）は日本の企業倫理について以下のように述べている。

（例2） 日本の企業倫理は ----- と言われている（水谷：1993， p. 77）。

② 注番号のつけ方

（例） 「----- (1)」 → （「 」内の引用全体にかかる場合）

----- (2)。 → （文全体にかかる場合）

----- (3) ----- → （直前の語句にかかる場合）

- ③ 文末注方式で論文末尾に注を付ける。書籍・研究文献以外の一次資料（インタビュー、歴史資料）、統計報告書、新聞、政府文書、Web資料からの引用は文末脚注に入れる。また特定の専門用語や、特定の概念や言説に関する解説を文末脚注に入れる。

5. 参考文献の書き方

参考文献（書籍、雑誌論文）は、欧文文献（著者名のアルファベット順）、邦文文献（著者名の五十音順）に分けてリストをつくる。書籍、雑誌論文以外に引用された文献は本文中ないし文末脚注において明記する。

- ① 欧文文献の書籍タイトル・雑誌名はイタリック体とする。

邦文文献の書籍名・雑誌名には『 』、論文名、雑誌記事名は「 」をつける。

- ② 文献は次の順序で表記する。

- ・書籍の場合：著者（編集者）名、（発行年）、『書籍名－副題』版、発行地、発行所。
- ・論文の場合：著者名、（発行年）、「論文名」、収録書物の著者（編集者）名、『収録書物名（または雑誌名）』、巻数、号数、ページ数。

（ただし、邦文文献の場合は不必要な発行地を省略して差し支えない）

- ・2行以上に表記が続く際は、2行目は2字程度下げて、他の文献と差別化できるようにする。

- ③ 文献表示の事例【邦文文献はAPA方式に従い、邦文文献もそれに従う】

- ・書籍

梅津光弘（2002）『ビジネスの倫理学』丸善。

Toffler, B. L. (1986). *Tough Choices: Managers Talk Ethics*. NY: John Wiley & Sons.

- ・論文

出見世信之（2004）「企業の倫理的行動—コーポレート・ガバナンスとの関係から—」『組織科学』第37巻第4号、33-42頁。

Cohen, D. (1998). Moral Climate in Business Firms: A Conceptual Framework for Analysis and Change, *Journal of Business Ethics*, 7(11): 1211-1226.

- ④ ウェブサイトの表示【Web資料】として独立して並べてもよい。
- ・ 著者（またはサイトの管理運営組織名）、記事執筆年（または掲載年）、「ページ名」、『サイト名』、年月日アクセス、＜URL＞の順で表記する。
 - ・ Web資料
一般社団法人日本経済団体連合会（2017）「企業行動憲章」『一般社団法人日本経済団体連合会』2020年4月25日アクセス、
＜<https://www.keidanren.or.jp/policy/cgcb/charter2017.html>＞
注意：URLのハイパーリンクを削除すること。URL の直前で改行を入れてもよい。

以上